



友の会と歩んだ6年間

さかい
坂井 なつ (友の会役員)

友の会に入会して7年目になる。

その間、スケジュールが合う限りは親子でできるだけ参加させていただいた。入会当時は小学1年生であった娘も、今や中学1年生。美術部に所属し、毎日忙しそうにしている。まさに娘の小学校時代とともに歩んだ友の会活動であった。

今後ともタイミングが合えば積極的に参加していくつもりだが、区切りが良いので、紙面を借りて私たち家族の友の会活動を振り返っていききたい。いま友の会に所属している方々や、これから参加を検討している小中学生の子どもを持つ親御さんの参考になれば幸いである。

博物館でのもっとも古い思い出は、2016年の化石発掘体験であった。恐竜の全身化石標本の展示のほかに、砂箱の中に埋まった化石を発掘するというイベントがあった。発掘といっても、サラサラの砂の中に埋まった化石を壊さないようにスコップですくい上げ、ザルの上に乗せて砂をふるい落とす、という内容だった。5分間にいくつかの化石をすくい上げ、そのうちの1個をもらって帰れるということで、娘はご満悦だった。

友の会行事としては、京都の神社仏閣への日帰りバスツアーがあった。早朝、文化の森からチャーターしてくださったバスに乗り一路京都へ。醍醐寺ではお寺の住職に境内を案内していただき、お寺の歴史や多数の国宝・重要文化財を見せていただいた。このような体験は個人旅

行では経験することができない貴重なものであった。

博物館友の会のイベントは人文系と自然史系とに分かれるが、どのイベントも毎回廉価で高品質であった。学芸員の方々のこだわりや、膨大な知識の片鱗を、子どもたちに体験させることができた。将来、娘が大きくなった時には、自分で何かにこだわりを持って人生を送ってもらいたいし、断片的な知識を収集し、それを体系的に整理する習慣を持つことで、豊かな人生を送ってもらいたいとも思っている。

本来、子どもたちは身近なところで自分の目標とする人物など、いわゆるロールモデルを見つけていくものだが、家族や地域だけでは、多様性の点でどうしても限られてくる。そんな時、学芸員の方々と交流できることは大変貴重だ。

このような機会がもっと広がれば良いと思い、4年ほど前から友の会会員募集用のチラシ(図1)作成に携わらせてもらっている。より多くの家族が友の会の活動を通して、自分がこだわって追究できる事柄を見つけていくきっかけになれば幸いである。



図1 デザインした友の会会員募集用チラシ

「徳島」を再発見できた 友の会行事

ふくた かずひろ
福田 和弘 (友の会会員)

「博物館友の会」は、県立図書館などに来館の折、行事案内のパンフレットなどを見て、2年前に家族会員になりました。ところが、あにくのコロナ禍、非常事態宣言やとくしまアラート等で楽しみにしていた研修旅行や一部の行事が残念ながら中止となり、この2年間で参加できたのは、6回ほどです。その中で印象深かった二つの行事を書きますが、その他のいずれの行事も知っているようで知らなかった「徳島」を再発見、垣間見ることが出来たように思います。

1) 「化石ハンター」

2020年6月、「化石をさがそう！」に夫婦で参加しました。学芸員さんの指導のもと、用意された勝浦町産の岩石(2018年に発見された白亜紀前期(約1億3000万年前)の恐竜化石を含む地層[ボーン・ベッド]由来)をハンマーで割り、化石を探すのですが、私の方は、植物の葉や種が見つかり喜んでいて、妻は、カメの甲羅の一部の化石を発見!非常に貴重であるとのことから、博物館への寄贈となり、「化石ハンター」の認定証をいただくことが出来まし



図1 「化石ハンター」の認定証をもつ妻(2020年6月)

た(図1)。

以来、「2匹目のカメ」を狙って昨年5月に開催された同行事にも参加させていただきましたが、植物と貝殻の化石のみでしたので、またの機会を期待しております。

2) 「新常設展」

2021年8月9日にリニューアルオープンした「新常設展」について、各担当学芸員さんから特別解説をいただきました(2022年2月)。

展示は、4K・VR等の新技術やハンズオンの活用、照明等あらゆる面でユニバーサルデザインの配慮がされています。また、ゾーニングは、以前の常設展が、通史的な構成で一筆書の動線であったのに対し、自由動線になったことから、関心あるコーナーの見学等がしやすく感じられました。

解説では、各担当学芸員さんが持つ専門分野の深い見識はもとより、情熱が感じられ、インターネット検索やオンラインでは得られないリアルな博物館を体感できました(図2)。今後のいろいろな企画展も非常に楽しみです。

最後に、学芸員さんの益々のご活躍並びに一日でも早く、日常がもどり、本来の友の会会員同士の交流や各種行事が開催されることを祈念いたします。



図2 新常設展での展示解説の様子(2022年2月)

家族で、友の会と博物館での 体験を語る

かたべ にちか なおみ ひでと
形部 仁悠・尚美・秀人（友の会会員）

①形部仁悠（13歳・中学2年生）さん

僕が友の会の行事に参加して一番おもしろかったことは、「さよなら常設展 一度限りの夢企画」で剣山のブナ林ジオラマの中に入ったり、解説してもらったりしたことです。その中で最も印象に残ったものは、ブナ林のジオラマに、普段はあまり見ない所まで細かく色々な動物がいたことです。僕は、解説を聞くまでそこにいるのは手前の大きな熊一頭だけかと思っていました。

また、リニューアルされた後の、スマホを使った「遊山ナビ」というアプリの立体映像もおもしろいなと思いました。

普段体験できない化石掘りでは植物の化石が多く、たまに貝や亀などの化石が見つかりました。高知の植物園で食虫植物というものを初めて見ました。阿波晩茶を初めて飲んだ時はあまり好きな味ではありませんでした。しかし自由研究としてまとめ、提出したら、特選の賞をもらいました（図1）。

僕はこれからも、色々な友の会の行事に参加し、多くの経験をして、多くのことを学びたいです。



図1 特選をもらった「阿波晩茶」の自由研究



図2 旧常設展で記念撮影

②形部尚美さん

私は、学生の頃から社会（地理・歴史）が苦手でした。何度教科書を読んでも、真面目に授業を受けても、テストでは思うような結果は得られませんでしたが、授業中に先生が話してくださる歴史の雑学はとても楽しく、よく覚えています。また、田舎育ちの私は、遊びや学校の行事を通していろいろな体験をしてきました。

息子には、歴史を好きになってほしい、いろいろな体験をしてほしいと思い、博物館には、よく遊びに行きました。博物館で行われているクイズラリーにもたくさん参加しました。楽しく学習ができ参加賞が嬉しくて、毎回楽しみにしていました（恐竜や猫の缶バッジや昆虫のキーホルダーは今でも大切にしています）。

また、夏休みには博物館をよく利用します。自由研究では、先生方に貝の種類や魚の名前を教えていただき、親子で勉強しました。

5年生の自由研究では、友の会行事「阿波晩茶製造農家見学」に参加し、阿波晩茶の歴史や製造工程、作り続けることの大切さをまとめ、学童展で特選をいただき、親子で喜びました。

友の会行事では、学校では体験できないことが体験でき、学校で学習したことをより深く知ることができています（博物館の展示物を見ながら説明してくれたり、クイズを出してくれます）。

息子が成長するとともに、親子の時間は減ってきましたが、博物館のイベントや友の会行事

を通して、親子で同じ時間を過ごし、一緒に学習でき、息子の成長を感じることができてとても嬉しいです。

いつまで一緒に出かけてくれるかわかりませんが、博物館を通してもう少し一緒に楽しい時間を過ごしていきたいです。

③形部秀人さん

友の会に参加させていただくようになって数年がたちます。普通に生活しているだけでは体験することのないイベントがあったり、それまで興味のなかった事にも触れる機会になったりと、家族そろって毎回楽しませていただいています。

自分が子供の頃とは違って、最近では何をするのも簡単ではなく、こういった体験が出来ることは、息子にとっても良い刺激になっていると思います。特に、毎回専門の先生が丁寧に説明してくれることは、いろいろな知識を得ることが出来て、大変有意義な時間となっています。

私個人としては、牧野植物園と徳島大空襲の跡地見学が特に興味深かったです。自然の美しさや戦争の激しさ・悲惨さ両方の体験は、友の会に参加していなければなかったと思います。

これからも楽しく為になるイベントを期待しています。よろしくお祈りします。

◆◆◆友の会活動体験特集について◆◆◆

今号には、3組の家族会員の方がたに、ご自身の友の会活動体験、博物館での体験について寄せていただきました。本紙面が、友の会活動の楽しさや魅力をシェアできる“場”となればとの願いからです。

次号71号(2023年3月発行予定)以降でも、ご自身の活動や友の会活動体験についての原稿を募集します。投稿をお待ちしています!

友の会行事報告

ザ・バックヤード

- 日時 8月21日(日) 11:00～13:00
- 場所 博物館バックヤード
- 担当 坂井なつ(友の会役員)
辻野泰之(博物館学芸員)
磯本宏紀(博物館学芸員)

○参加者 25名

どんなに博物館に通い慣れた人でも、バックヤードの様子を知っている人は少ないと思います。今回は、文化の森サマーフェスティバルにあわせて、博物館の活動や役割、展示をつくるプロセスを知ってもらえるよう、バックヤードツアーを実施しました。

トラックヤード、荷解場、くん蒸室、企画展準備室、展示ケース等の倉庫、地学収蔵庫、石工室、屋上等を見学してもらい、最後に常設展で展示解説をしました。参加したみなさんの、バックヤードでの興味津々な様子が印象に残りました。(丸山直生)

Voic^e 参加者の声

●西村充さん・謙吾さん

・普段は見られない博物館の裏側を見学することができ、貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。学芸員の方々の仕事の、



荷解場



くん蒸室

想像以上の大変さにびっくり&感心させられました。博物館のお仕事に小学2年の息子も興味津々でした。

・いろいろなかせきやへやを、見せてくれて、ありがとうございます。感動しました。

●桑内隆さん

博物館は大好きですが、バックヤードは初です。展示室は全体の一部で、管理・準備の作業と設備が大変な事がよくわかりました。

●北岡理沙さん・拓己さん

・普段は展示されている展示物を、その物に注目して見ているだけだったが、今回、バックヤードでそれらの展示物がどのように整理され、管理や保管されているかを知ることができ、その大変さや難しさに触れることができた。今後、博物館で展示物を見る時に、もっとそれらの貴重さを実感できそうに思う。

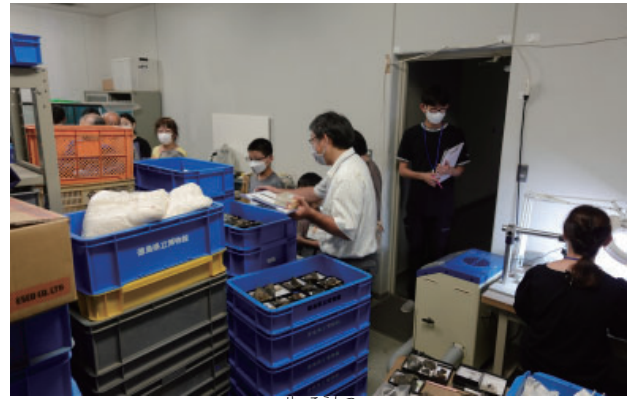
・いろんなところに行けたので、楽しかったです。あと、せつ明が分かりやすかったです。また、きかいがあつたらよろしくおねがいします。

●行成正昭さん

当博物館の展示室で、いろいろな分野の展示されたものは今迄に何度か見たが、この行事に参加してみて、展示される過程でいろいろ資料他、下準備が大変だということがわかった。

●才川希代子さん

バックヤードでは、展示室ではわからない工夫やご苦労があることがわかりました。化石のクリーニングに興味あり。



石工室

●勝浦佐知子さん・實さん

・多くの資料の管理が種類により全部違うので、たいへんだなと思いました。機会があればもう一度参加できればいいなと思いました。

・多くの資料があり、管理が大変だと感じ、改めて大切にしてもらいたいと思いました。

●中下弘子さん・明俐さん

・展示されるまでの背景に興味がありました。今回の参加で、展示品の保管状況や展示に至るまでのプロセスをかいまみることができ、大変良かったです。今後も続けてほしい企画です。ありがとうございます。

・きょうりゅうのレプリカのあたまのほねが、すごく大きかった。

●長谷美和さん・和哉さん・奈菜子さん

・火災の時に、スプリンクラーで水をかけて消火するのではなく、その部屋に特別なガスを入れて、燃えにくくする(消火する)という設備をはじめて知りました。とってもおもしろかったです。

・収蔵している物によって、壁の構造や湿度を変えていること、初発見でした。

・大きなガラスケースを見て、びっくりしました。

●形部仁悠さん・尚美さん

・普通だったら入れないような場所に入れたり、工夫されている装置を知ることができておもしろかったです。

・博物館には展示されている物よりも、もっと

多くの物が置いてあり、すごいと思いました。
・博物館の先生には、展示物を作る以外にも、
色々な仕事があることを知りました。

●^{よしおかしげる}吉岡滋さん

文化の大切さ、地球のはかなさを感じました。
SDGs 住み続ける豊かな町に博物館が見えてき
ます。

●^{たかたみきこ}高田美紀子さん

本日バックヤードの見学をさせていただきました。
ご説明の中で、いかに資料を大切に、そ
こなわずに、保管→展示するかに、心をくだ
かされているのが、よくわかりました。資料の種類
により、最良の扱いをされているのに感心しま
した。また、企画展の準備も自分たちでポスター
づくり等をしているとのことで、表からはみえ
ない部分（ご苦労）を知ることができ、よかつ
たです。

報 告 2022 年度総会

2022 年度の友の会総会を、4月24日（日）
14時45分より博物館3階講座室にて開催しま
した（参加者は22名）。新型コロナウイルス感
染症の感染防止対策として、窓を開け、席の間
隔を広くとって行いました。

議事につきましては、2021年度事業報告・
決算報告、^{かんさ}監査報告、役員改選、2022年度事
業計画・予算について^{しんぎ}審議した結果、すべて承
^{しんぎ}認されました。

また、総会終了後には、^{おおはしとしお}大橋俊雄学芸員の解
説により、企画展「^{あわがだん}阿波の画壇をたのしむ一
^{せい}世の画人と作品一」を^{かんらん}観覧しました。

1. 2022 年度友の会行事

(1)漂着物をさがそう

実施日：9月頃（10月23日（日）終了）

場 所：海部郡美波町（田井ノ浜）

(2)銅鏡をつくろう

実施日：9~11月頃（11月27日（日）予定）

場 所：博物館3階実習室

(3)お祭りを見にいこう！（川田八幡神社秋祭 り見学）

実施日：10月（10月22日（土）終了）

場 所：吉野川市山川町（川田八幡神社）

(4)おふだをしらべよう

実施日：2月頃

場 所：博物館3階実習室

(5)愛媛県総合科学博物館+マイントピア別子 バスツアー

実施日：2月頃

場 所：愛媛県方面

(6)恐竜の化石をさがそう！（恐竜化石含有層 の岩石の小割）

実施日：3月上旬

場 所：博物館

※総会后、役員との協議の上、次の行事を実
施した。

ザ・バックヤード

実施日：8月21日（日）（終了）

場 所：博物館バックヤード

2. 広報活動

博物館広報印刷物（月別催し物案内・企画展
チラシ・博物館ニュース・文化の森から等）を
提供します。



総会の様子

3. 図録の販売

企画展図録『阿波の画壇をたのしむ一近世の画人と作品一』と『鳥居龍蔵をめぐる人びと』の販売をします。

4. 友の会会報の原稿募集及び発行・配布

会報「アワーミュージアム」No.70・71 の発行・配布をします。

5. 会員募集

- (1)来館者に案内チラシを配布します。
- (2)博物館普及行事において、参加者に友の会の案内を行います。

6. 友の会グッズの販売

ポストカードとクリアファイル2種（自然・人文）、缶バッジ4種の販売をします。

7. 2022年度 友の会役員

会長：行成 正昭
 副会長：大杉 洋子、徳野 壽治
 幹事：幸坂 敏行、結城 孝典
 監査：本田 壮一、坂井 なつ
 事務局長：石尾 和仁、中村 由香
 事務局員：長谷川 賢二（副館長）

事務局員

大橋 俊雄（課長）、小川 誠（課長）
 森 篤之（課長補佐）、丸山 直生（係長）
 磯本 宏紀（学芸員）、辻野 泰之（学芸員）

新スタッフ紹介

●長町哲治（館長）

みなさん、こんにちは。4月から館長に就任しております長町哲治と申します。

文化の森総合公園は、私がまだ脇町高校に



ながまちてつじ
長町哲治館長

通っていた1980年にその構想が発表され、10年後の1990年に開園しています。県内の主要な文化施設が一堂に会した、この広大な都市公園は、当時はもとより、今考えても、全国に類を見ない壮大なビッグプロジェクトと言えるでしょう。その推進にはハード面、ソフト面とも、さぞかし多くの方々の大変なご苦労があったものと推察いたします。

中でも、博物館は、昨年夏にリニューアルオープンし、さらに魅力を高めて新たな歴史を歩み始めています。

私はこれまで県行政職員として、観光やスポーツ、国際交流、教育をはじめ、様々な業務に携わってまいりました。また、勤務地も徳島以外に東京で4年、大阪で3年、タイのバンコクで1年と、家族で様々な暮らしも体験しました。

今年4月の博物館法の改正により、博物館は文化観光など地域の活力向上へ一層の寄与を求められています。そこで、これまで培ってきた知識や経験、人脈等をフルに活用し、県内外の多くの方々に博物館を楽しんでいただけるよう尽力したいと思います。そしてこれまで通り、文化の森を「徳島の誇り」として次世代に引き継げるよう努力したいと考えています。

友の会会員の皆様、どうぞよろしくお願いたします。

●おぶせ 彰太 (地学担当学芸員)

4月に地学担当学芸員に着任しましたおぶせ 彰太と申します。出身は長野県ですが、2020年からこちらに移り住み、徳島歴は今年で3年目になります。

私は地学分野の中でも、古脊椎動物が専門になります。大学院では、中生代のワニ化石を対象に、分類や古生態の研究を行ってきました。国内外の化石発掘調査に連れて行ってもらい、経験を積ませてもらうこともありました。

そして2020年の春から、徳島県立博物館の地方創生推進職員として働き始め、勝浦町で行われている恐竜化石発掘調査の補助や、調査で見つかる化石のクリーニング作業などを行ってきました。昨年度の常設展リニューアルも手伝うことができ、非常に多くのことを学んだ2年間だったと思います。

これからは学芸員として、展示や普及行事を通して、化石をはじめとする徳島の地質の魅力や魅力を皆様に伝えていきたいと思っています。一生懸命取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。



おぶせ 彰太 学芸員

●こばやしあつまさ とりいりゅうぞう きねんはくぶつかん (鳥居龍蔵記念博物館学芸員〔博物館歴史担当学芸員兼務〕)

はじめまして。今年の4月に学芸員として着任したこばやしあつまさ とりいりゅうぞう きねんはくぶつかんと申します。本務は鳥居龍蔵記念博物館ですが、県立博物館も兼務させていただいております。出身は九州(残念ながら、お酒はあまり強くありません)ですので、新天地・四国での生活を楽しまつつ、早く地域になじんでいければと思います。

これまで、日本近代史、特に明治・大正時代の政治や教育に関心をもって研究をしてきました。大学・大学院で学びつつ、公文書館や古文書館で資料整理の仕事をしてきました。

こうした仕事のなかで、その地域の歴史は、「顔の見える関係」ともいえる地域の人々のとても密接な関係性のなかで築かれてきたということを知ることができました。地域に残された古文書は、一点一点はとても地味なものです。丁寧に内容を読み解いていくことで、とても豊かな歴史像を描く材料に変身してくれます。

みなさまのお手元に古い資料がありましたら、ぜひ博物館までご一報いただけますと幸いです。最後になりますが、頑張っていきますので、どうぞよろしくお願いたします。



こばやしあつまさ 学芸員

アワーミュージアム 第70号

2022年10月31日発行 : 徳島県立博物館友の会
〒770-8070 徳島市八万町向寺山 徳島県立博物館内

TEL 088-668-3636 FAX 088-668-7197 E-mail: mus-fukyu@bunmori.tokushima.jp